

# 核攻撃専用機沖縄に配備

嘉手納4月から復帰後初か

米空軍が嘉手納基地（沖縄県嘉手納町など）に今年4月からローテーション（巡回）配備してくる戦闘機・F15Eストライクイーグルが核攻撃能力を持っており、配備前には米本土で核投下試験を行っていたことが分かりました。

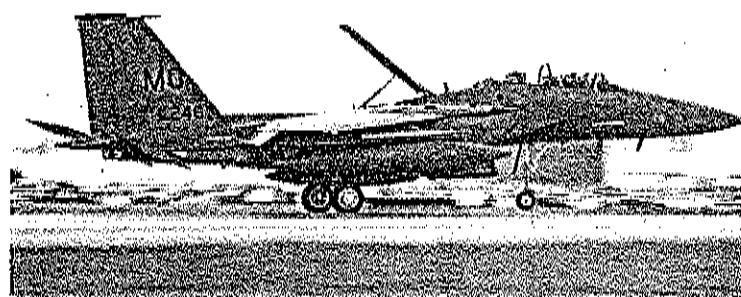
## 米で投下試験

ウンテンホーム空軍基地を拠点とする第391戦闘飛行隊に所属しています。核

を公にしている米軍機が配備されたのは、1972年。の本土復帰後、初めてとみられます。政府はF15Eの配備について、「日米同盟にとって重要な取り組みだ」

（浜田靖一防衛相、4月14日の記者会見）と認認しています。岸田文雄首相は19日に開幕する主要7カ国（G7）広島サミットに向けて「核兵器のない世界」の実現を標榜していますが、その欺瞞ぶりがあらわになっています。

嘉手納基地では、昨年まで配備されていたF15C/D戦闘機が老朽化のため帰還し、米本土から代替機の巡回配備が行われています。嘉手納を拠点とする米空軍第18航空団によると、F15Eは米アイダホ州のマ



沖縄・米空軍嘉手納基地に到着したF15E戦闘機=4月22日（同基地ウェブサイトから）

## 広島サミット「核なき世界」と矛盾

ます。

米空軍の公開資料によるところ、第391戦闘飛行隊に所属するF15Eは2021年秋、ネバダ州のネリス空軍基地で実施された「DC

A核兵器システム評価プロセス」に参加。B61の模擬弾を投下しています。米空軍航空戦闘コマンドの司令官はF15Eについて、「核兵器システム評価プログラム対応機として、同盟国には信頼を、敵国には多くの選択肢がある」とを知らしめる」とコメント。核の脅しをあからさまに誇示しています。

米「翼廻る科学者同盟」のグレゴリー・カラーキー氏（長崎大学核兵器廃絶研究センター・外国人客員研究員）は「F15Eは最新鋭のB61戦術核も搭載可能なDC/A対空・対地攻撃機だ。広島で核軍縮を訴えようとしている岸田政権の方針と、核戦争準備につながる同機の配備は明らかに矛盾している」と指摘しました。